

2018年3月期 第1四半期 決算補足資料

1. 決算概観(連結)
2. 業績のポイント
3. 主要製品の状況
4. 開発品一覧

【参考資料】

5. セグメント情報
6. 業績と予想(連結)

2017年7月31日

キョーリン製薬ホールディングス株式会社

本資料に記載されている業績予想等は、現時点で入手可能な情報により判断した予想であり、将来の業績に影響を与える不確実な要因やリスクが含まれています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる可能性があります。



2018年3月期 第1四半期 決算概観(連結)

(単位:百万円)

	15年3月期 第1四半期	16年3月期 第1四半期	17年3月期 第1四半期	18年3月期 第1四半期	前年比
売上高	26,397	26,567	27,707	26,458	-4.5%
営業利益	3,575	2,173	3,244	2,595	-20.0%
経常利益	3,847	2,316	3,485	2,805	-19.5%
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	2,681	1,757	2,580	2,393	-7.3%

18年3月期 第2四半期 予想	前年比	18年3月期 通期予想	前年比
54,600	-0.1%	113,400	-1.7%
5,300	+44.7%	12,100	+16.2%
5,600	+42.8%	12,600	+15.9%
4,500	+67.6%	9,700	+32.8%

18年3月期 第1四半期 連結業績(実績)

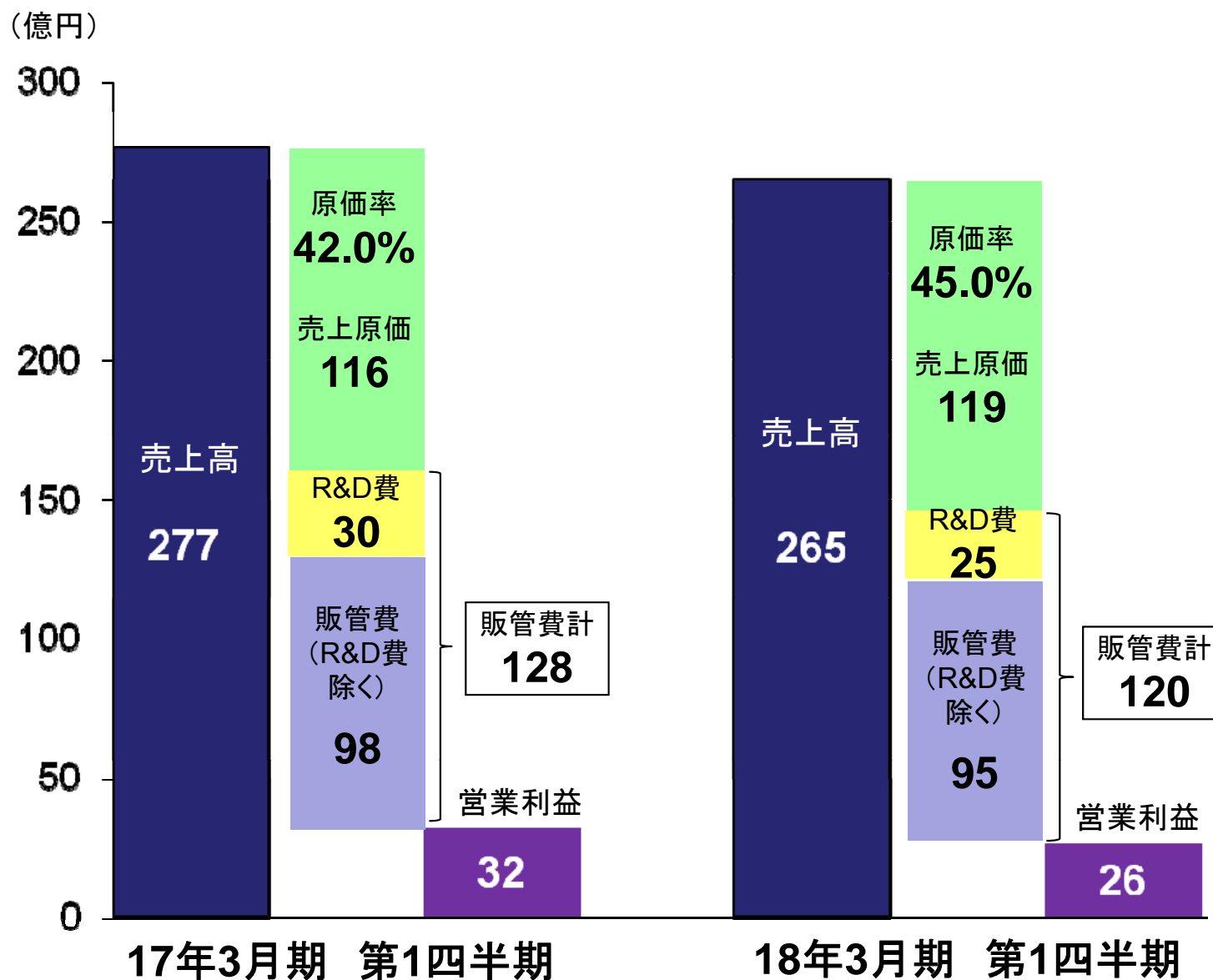
【売上高】 主力製品「フルティフォーム」、新製品「デザレックス」は順調に伸長したものの、「キプレス」の特許満了による影響により、(国内)新医薬品が減収となりました。他方、後発医薬品はモンテルカスト(キプレス)のAGの売上拡大により増収となりました。以上の結果、全体の売上高は264億58百万円と前年同期比12億49百万円減(前年同期比4.5%減)となりました。

【利益】 (国内)新医薬品の売上減少等により、売上総利益は前年同期に対して15億01百万円減少しました。販売費及び一般管理費はコスト削減を推進し、前年同期に対して8億52百万円減少(内、研究開発費5億37百万円減)しました。その結果、営業利益は、25億95百万円(前年同期比20.0%減)となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は、ドクタープログラム(株)の株式譲渡に伴う特別利益 約6億円を計上したこともあり、23億93百万円(前年同期比7.3%減)となりました。

18年3月期 連結業績(予想)

2017年5月11日に公表しました第2四半期連結累計期間及び通期の業績予想につきましては、現段階では変更いたしません。
(第2四半期予想に対する進捗度 売上高:48.5% 営業利益:49.0%)

2018年3月期 第1四半期 業績のポイント



【ポイント】

- 売上高は前年比12億円減少
 - ・国内新医薬品の売上減少
 - ・後発医薬品の売上増加
- 売上原価率は3.0%上昇
- 売上総利益は前年比15億円減少

- 販管費は前年比8億円減少
 - ・R&D費は5億円減少
 - ・販管費(R&D費除く)は3億円減少
- 営業利益は前年比6億円減少

2018年3月期 第1四半期 業績の状況

(単位:億円)

(対前年)

	17年3月期 第1四半期	18年3月期 第1四半期	対前年
売上高	277	265	-12
医療用医薬品事業	264	251	-13
◆新医薬品	218	182	-36
○国内	217	180	-37
○海外	1	2	+1
◆後発医薬品	46	69	+23
ヘルスケア事業	13	13	0
営業利益	32	26	-6
経常利益	35	28	-7
親会社株主に帰属する 四半期純利益	26	24	-2

■売上高	265億円	(-12)	
◆医療用医薬品事業	251億円	(-13)	
●国内新医薬品	180億円	(-37)	
	16.6(1Q)	17.6(1Q)	
・フルティフォーム	23	⇒ 28	(+5)
・ウリトス	20	⇒ 19	(-1)
・デザレックス ※	-	⇒ 5	(+5)
・キプレス	99	⇒ 52	(-47)
・ペンタサ	40	⇒ 40	(0)
・ムコダイン	24	⇒ 21	(-3)
	※2016年11月上市		
●海外新医薬品	2億円	(+1)	
●後発医薬品	69億円	(+23)	
	モンテルカストのAGの売上が増加		
◆ヘルスケア事業	13億円	(0)	
■営業利益	26億円	(-6)	
◆営業利益率は9.8%と前年比1.9ポイント低下			
●原価率:前年比3.0ポイント上昇 (42.0%⇒45.0%)			
	* 国内新医薬品の売上減少、後発医薬品の売上増加		
●研究開発費率:前年比1.5ポイント低下 (10.9%⇒9.4%)			
	* 5億円減少(30億円⇒25億円) 前年はプロジェクト進展により増加(KRP-AM1977X等)		
●販管費率(除くR&D費):前年比0.5ポイント上昇 (35.3%⇒35.8%)			
	* 3億円減少(98億円⇒95億円) 人件費、一般経費の減少		
■親会社株主に帰属する 四半期純利益	24億円	(-2)	

* 特別利益:ドクタープログラム(株)の株式譲渡に伴う利益 約6億円を計上

2018年3月期 第1四半期 主要製品の状況

(単位:億円)

製品名		第2四半期		通期		第1四半期(4月～6月)				
		16年9月 実績	17年9月 予想	17年3月 実績	18年3月 予想	16年6月 実績	17年6月 実績	前年比	中間 進捗率	通期 進捗率
国内 新医薬品	フルティフォーム (喘息治療配合剤)	45	54	101	120	23	28	+20.3%	50.8%	22.8%
	ウリトス (自社販売分) (過活動膀胱治療剤)	38	38	75	76	20	19	-5.8%	48.3%	24.4%
	デザレックス (アレルギー性疾患治療薬)	—	9	10	35	—	5	—	48.1%	12.8%
	キプレス (気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤)	178	102	327	210	99	52	-47.8%	50.5%	24.5%
	うち、キプレス小児用	63	55	149	111	33	31	-4.5%	57.0%	28.1%
	ペンタサ (潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤)	79	79	155	156	40	40	-0.8%	49.6%	25.3%
	ムコダイン (気道粘液調整・粘膜正常化剤)	44	37	99	83	24	21	-10.1%	56.5%	25.6%
後発 医薬品	モンテルカスト錠「KM」 (気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤)	18	46	82	103	—	27	—	58.4%	26.0%
一般用 医薬品	ミルトン (哺乳ビン・乳首消毒剤)	11	10	22	21	5	5	+6.9%	51.8%	25.3%

開発品一覧①(2017年7月31日現在)

PhⅢ ~承認

※:前回(2017年3月期 5月11日発表)からの変更点

開発段階		製品名・ 開発コード	薬効	起源	特徴	備考
国内	海外					
申請 (17年4月)		※KRP-AM1977X (経口剤) (注1)	キノロン系合成抗菌剤	自社	75mg 1日1回投与で優れた臨床効果を確認(市中呼吸器感染症・耳鼻咽喉感染症) ・呼吸器、耳鼻科感染症の起炎菌、及びβラクタム系・マクロライド系抗菌薬耐性株に対して強力な抗菌活性を示す ・血漿比10倍を超える肺組織への良好な移行性 高い安全性が期待される ・同系統の抗菌剤で懸念される、血糖値異常、光線過敏症、関節障害、消化器症状などを引き起こす可能性は低い	
PhⅢ (16年3月)		KRP-AM1977Y (注射剤)	キノロン系合成抗菌剤	自社		
申請準備中	【米国、欧州、他】 米国ルク社 :PhⅡ終了	KRP-114V	過活動膀胱	米国 ルク社	・従来の過活動膀胱治療薬と比較して、副作用が少なく、服薬コンプライアンスが高まることが期待される ・β3受容体作動薬として、薬物相互作用が少ない ・本剤が分類されるβ3作動薬は、過活動膀胱治療におけるファーストラインとなる可能性がある	米国ルク社とライセンス契約(14年7月) キッセイ薬品工業(株)と共同開発・共同販売に関する契約を締結(16年3月) 米国ルク社とアジア地域におけるライセンス契約(17年4月)
PhⅢ (17年3月)		KRP-116D	間質性膀胱炎治療剤	—	医療上の必要性の高い未承認薬・適用外薬に該当する「ジメチルスルホキシド」	
PhⅢ (17年6月)		※KRP-108P (注2)	気管支喘息	英国 ベクチュラ社	喘息治療配合剤「フルティフォーム」の小児適応拡大	

注1 : KRP-AM1977Xについては、追加の非臨床試験が必要となり実施いたします。

注2 : KRP-108Pについては、喘息治療配合剤「フルティフォーム」の小児適応拡大として、PhⅢ臨床試験を開始いたしました。

開発品一覧②(2017年7月31日現在)

POCプロジェクト(Ph I ~Ph II)

開発段階		製品名・ 開発コード	薬効	起源	特徴	備考
国内	海外					
Ph II (再) (15年8月)	ルツ社 Ph III	KRP-209	耳鳴	ドイツ ルツ社	NMDA受容体拮抗作用及びニコチン作動性アセチルコリン受容体拮抗作用を有し、耳鳴に伴う心理的な苦痛、生活障害の改善が期待される	ルツ社とライセンス契約 (09年11月)
Ph I / II (15年7月)	【米国】桃太郎源株 : Ph I / II 前立腺がん(14年5月)	Ad-SGE-REIC	悪性胸膜中皮腫	岡山大学	岡山大学で発見された新規がん抑制遺伝子REICを使用する遺伝子治療薬。がん細胞選択的アポトーシスと抗がん免疫の活性化を誘導することが期待される	産学共同実用化開発事業[NexTEP]への採択 (14年6月)

開発品一覧③(2017年7月31日現在)

導出品の状況

開発段階／海外	製品名・ 開発コード	導出先	薬効	起源	特徴	備考
Ph I	KRP-203	スイス ノバルティス	移植片対宿主病 (GvHD)	自社	S1P受容体アゴニスト。免疫調節剤	ノバルティスとライセンス契約 (06年2月) GvHDでの開発集中を 決定(15年11月公表)
前臨床	—	米国 ブリストル・マイヤーズ スクイブ社	非開示	自社	FPR2作動薬。主に好中球の遊走を抑制し抗炎症作用を示す	BMS社とライセンス契約 (15年12月)

参考資料

報告セグメントごとの売上高および利益

(単位:億円)

	売上高		セグメント利益	
	金額	対前年	金額	対前年
合計	265	-12	26	-6
医療用医薬品事業計	251	-13	25	-7
◆新医薬品	182	-36		
○国内	180	-37		
○海外	2	+1		
◆後発医薬品	69	+23		
ヘルスケア事業計	13	0	0	0
調整額	—	—	1	0

2018年3月期 第1四半期 業績と予想(連結)

(単位:百万円)

	第2四半期		通期		第1四半期(4月~6月)					
	16年9月 実績	17年9月 予想	17年3月 実績	18年3月 予想	16年6月 実績	17年6月 実績	対前年 増減額	対前年 増減率	中間 進捗率	通期 進捗率
売上高	54,628	54,600	115,373	113,400	27,707	26,458	-1,249	-4.5%	48.5%	23.3%
医療用医薬品事業	51,936	51,900	109,566	107,400	26,412	25,112	-1,300	-4.9%	48.4%	23.4%
◆新医薬品	41,615	38,300	84,542	78,900	21,805	18,242	-3,563	-16.3%	47.6%	23.1%
○国内	41,272	35,700	83,777	75,500	21,741	17,999	-3,742	-17.2%	50.4%	23.8%
○海外	343	2,600	764	3,300	64	242	+178	+278.1%	9.3%	7.3%
◆後発医薬品	10,321	13,500	25,024	28,500	4,606	6,870	+2,264	+49.2%	50.9%	24.1%
ヘルスケア事業	2,691	2,700	5,807	5,900	1,295	1,346	+51	+3.9%	49.9%	22.8%
営業利益	3,663	5,300	10,413	12,100	3,244	2,595	-649	-20.0%	49.0%	21.4%
経常利益	3,921	5,600	10,874	12,600	3,485	2,805	-680	-19.5%	50.1%	22.3%
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	2,684	4,500	7,305	9,700	2,580	2,393	-187	-7.3%	53.2%	24.7%